

人の数だけ恋愛の形がある。時代が変われば、恋愛の形も変わる。

恋人がいるのは、全体の 15% だけ！

意中のあの人、実は恋人募集中！？

恋愛に関するアンケート調査

□ トピック

- ・ 好きな人、いるもいないも、約半々
- ・ 恋多き大学生は、約 6 割が告白経験者
- ・ 中高大生の約 6 割が、すでに告白されている
- ・ 告白する人、される人
- ・ 恋人がいるのは全体の約 15%。大学生では約 7 割が恋人なし。
- ・ 同じ年の恋人、出会いは教室で

<アンケート概要>

対象：日能研卒業生の中学 1 年生以上の生徒

調査方法：インターネット

回答者属性：

学年	男子	女子	合計
中学生	44	91	135
高校生	18	59	77
大学生以上	24	36	60
合計	86	186	272

■ 好きな人、いるもいないも、約半々

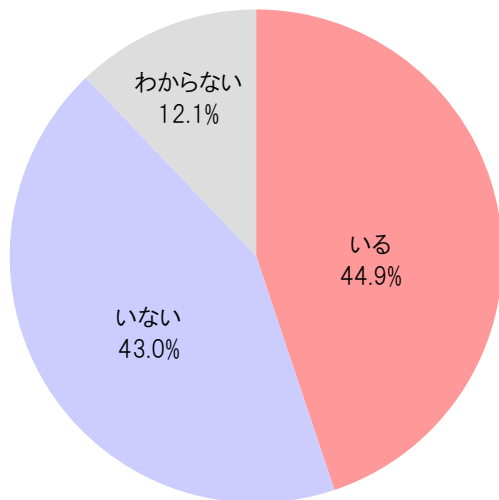
大人とは怖いものである。アンケートと称すれば、子どもに何でも聞くことができる。それが例え自分自身が聞かれたら嫌なことであっても。

今回は、中高大学生の恋愛に関するアンケート調査だ。

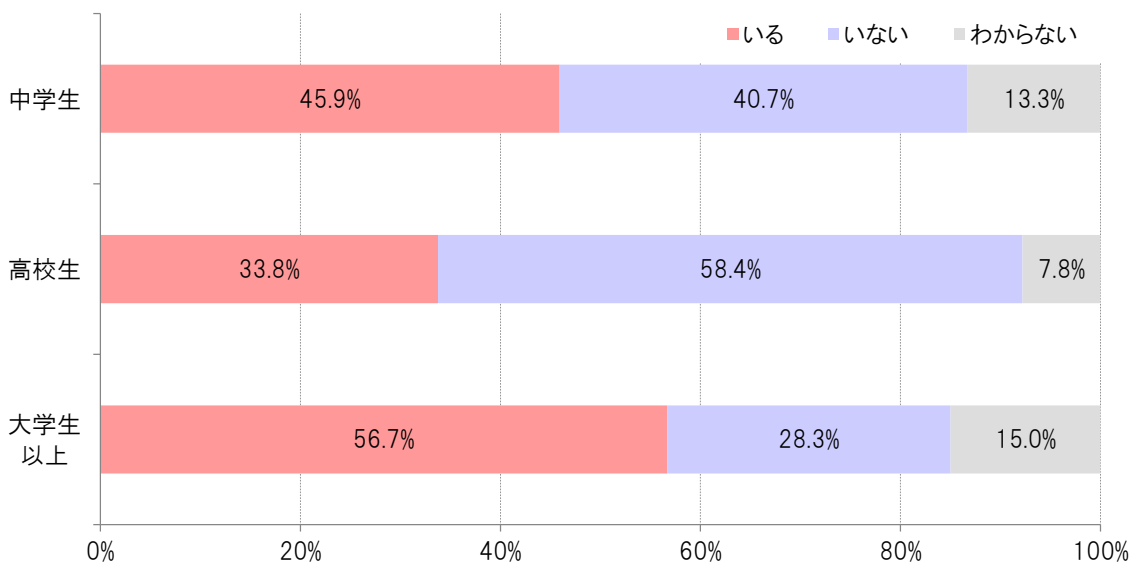
まずは現在、好きな人がいるかどうかを聞いた。結果は半々（図表 1）。段階別に集計すると当然ながら大学生以上では、好きな人がいる割合が多くなる（図表 2）。

この結果で気になるのは「わからない」の回答だ。中学生の「わからない」と大学生の「わからない」はおそらく別物だろう。後者の回答の中には、恋愛に迷子になっている層も少なからずいるのではないか（余計なお世話か）。

<図表 1：現在好きな人はいますか？（n=272）>



<図表 2：現在好きな人はいますか？（段階別：中=135、高=77、大以上=60）>

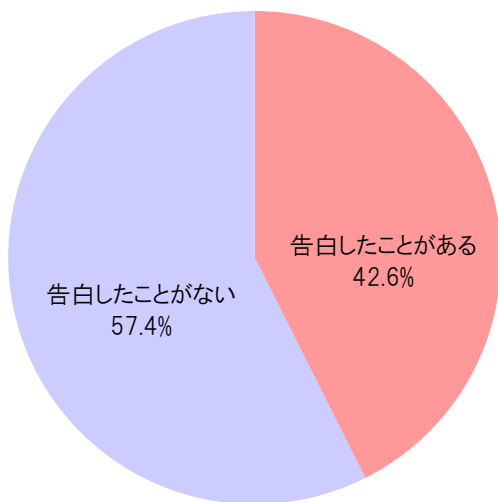


■ 恋多き大学生は、約 6 割が告白経験者

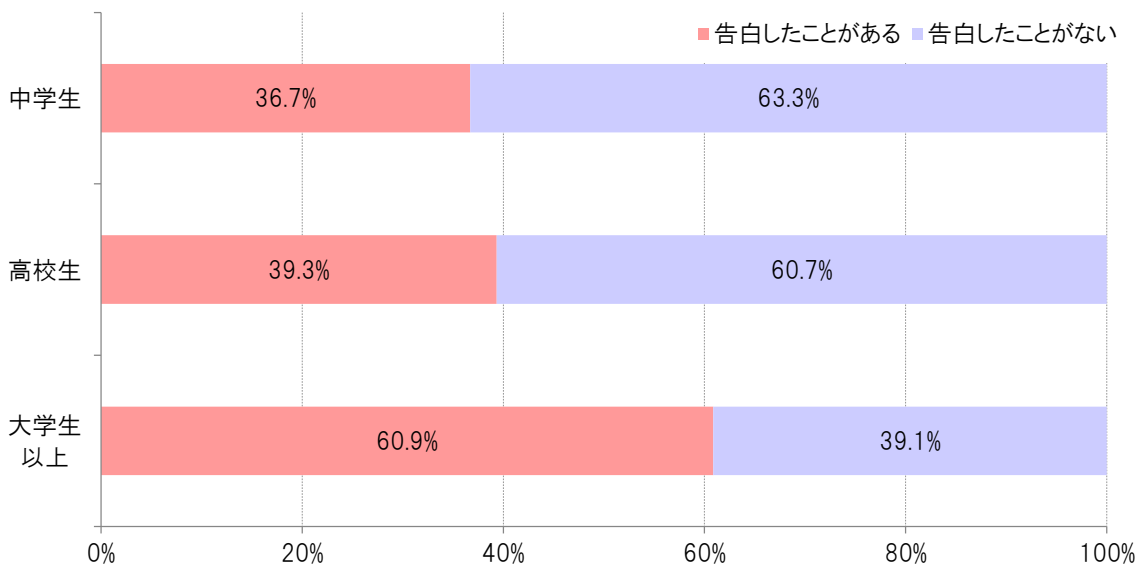
続いて、下世話な大人が気になるのは、現代の中高大の生徒は肉食なのかどうか。自分からの告白の経験の有無を聞いた。

全体では、告白を「したことがない」層が 57.4%と、「したことがある」層を上回った（図表 3）。今も昔も、告白するのに勇気がいるのは同じなのだろう。段階別に見ると、特に中学生・高校生においては、告白したことがある層は 40%以下と少ない（図表 4）。だが、大学生のなると状況が一変する。約 6 割の学生が、告白を「したことがある」と回答するようになる。やはり大学生になると、恋の勉強もしたくなるのだろうか。

<図表 3：告白したことはありますか？（n=216）>



<図表 4：告白したことはありますか？（段階別：中=109、高=61、大以上=46）>



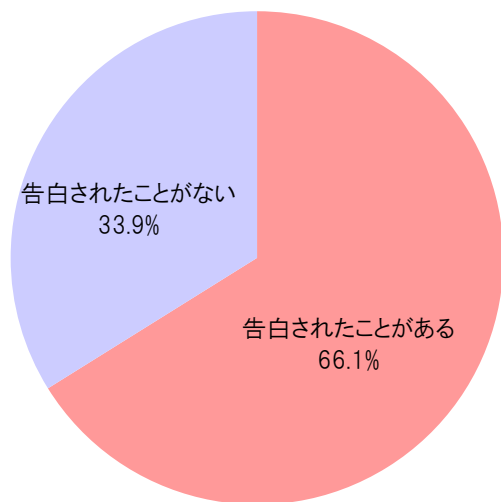
■ 中高大生の約6割が、すでに告白されている

告白したことがあるかを聞けば、告白されたことがあるかも聞きたくなる。純粋な10代の生徒に申し訳ない。

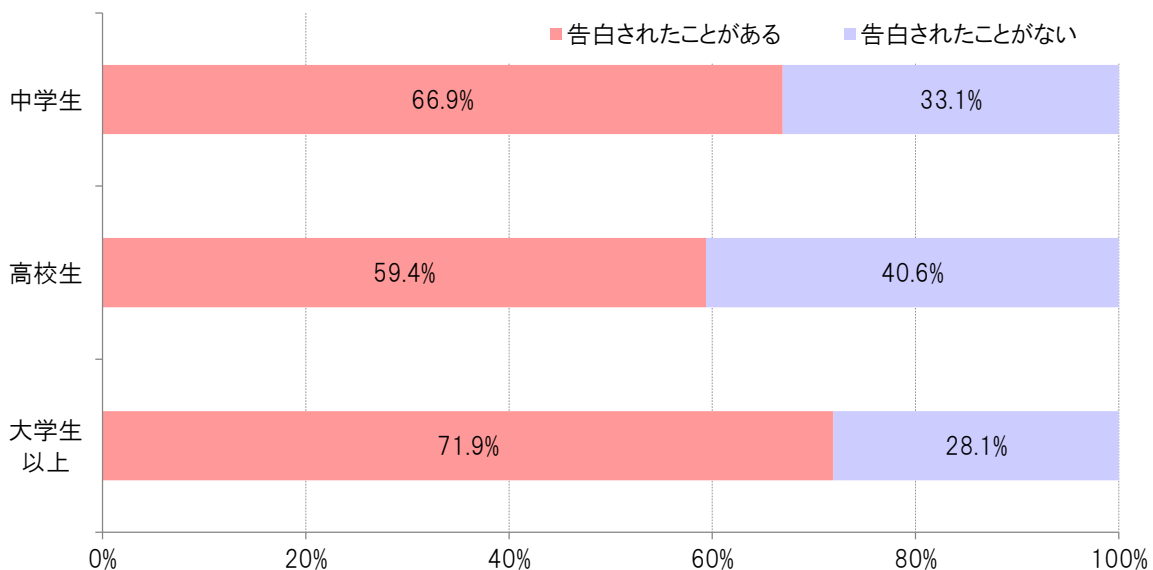
前項の告白した経験の有無から考えれば、告白された経験も少ないのかと思いきや、結果は全体の66%が告白を「されたことがある」と回答した(図表5)。段階的に見れば、大学生になると告白されたことがある割合は70%を超える(図表6)。時期は指定していないため、年齢が上がればそれだけ告白される機会も増えるからだろう。

現代は電話やメール、LINEで告白する・されるという話も聞く。時代は変化している。

<図表5：告白されたことはありますか？(n=248)>



<図表6：告白されたことはありますか？(段階別：中=127、高=64、大以上=57)>



■ 告白する人、される人

くだらないことに頭を使う大人は、ここまで集計して「どうせなら回答した子どもたちを、告白した・されたで分類してみよう」と思いつく。

横軸に告白したことが「ある」「ない」を取り、縦軸には告白されたことが「ある」「ない」を取ってマトリックスを作り、プロットしてみる（図表 7）。

それぞれがわかりやすいように、

- (A)：恋に奥手（告白したことないが、される）
- (B)：オープンマインド（告白するし、される）
- (C)：初恋、それは実らない恋（告白するが、されたことはない）
- (D)：傍観者（告白しないし、されない）

とタイプごとに名称を付けてみた。

中高大生にしてみれば、本当に余計なお世話だ。

<図表 7：分類マスターシート>

		告白したことが		無回答
		ある	ない	
告白されたことが	ある	(B)	(A)	-
	ない	(C)	(D)	-
無回答		-	-	-

では実際に、今回の回答者をプロットしてみたい。

回答者全体で見ると、「オープンマインド」タイプと、「傍観者」タイプがそれぞれ約 25% で、この 2 つのタイプで半数を占めた（図表 8）。次いで「恋に奥手」タイプが 15%。ざっくり言えば、告白したことある人はほとんどが告白されたこともあり、逆に告白したことない人はされたこともない、ということのようだ。そしてその中であって一番お得な、告白しないが告白される「恋に奥手」タイプは、やはりそれほど多くはない。

<図表 8：回答者全体のタイプ（n=272）>

全体		告白したことが		無回答
		ある	ない	
告白されたことが	ある	26.5%	15.4%	18.4%
	ない	3.3%	25.7%	1.8%
無回答		4.0%	4.4%	0.4%

もう一つ、この図表を男女別でまとめてみた（図表 9）。

差が出たのが注目の「恋に奥手」タイプ。女子のその割合は、男子の 2 倍だった。やはり女子の方が恋についてはお得なのか。いや、もしかしたら女子のこのタイプは、「それとなく相手に告白させるように仕向ける小悪魔」タイプなのかもしれない。10 代の子どもたちは、大人たちよりも微妙な駆け引きの社会の中で生きている。

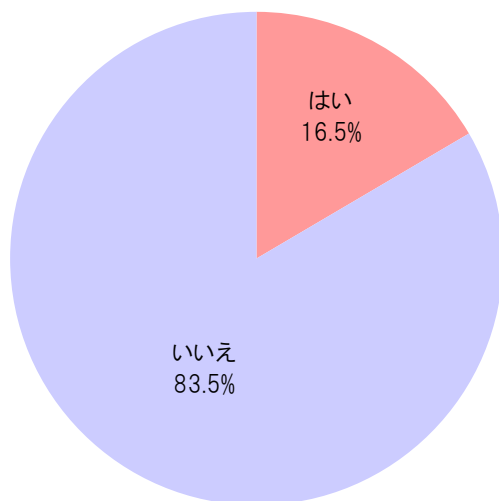
<図表 9：男女別の回答者のタイプ（段階別：女子=186、男子=86）>

女子		告白したことが		無回答	男子		告白したことが		無回答
		ある	ない				ある	ない	
告白されたことが	ある	26.9%	18.3%	19.4%	告白されたことが	ある	25.6%	9.3%	16.3%
	ない	3.2%	22.6%	1.6%		ない	3.5%	32.6%	2.3%
無回答		3.2%	4.8%	0.0%	無回答		5.8%	3.5%	1.2%

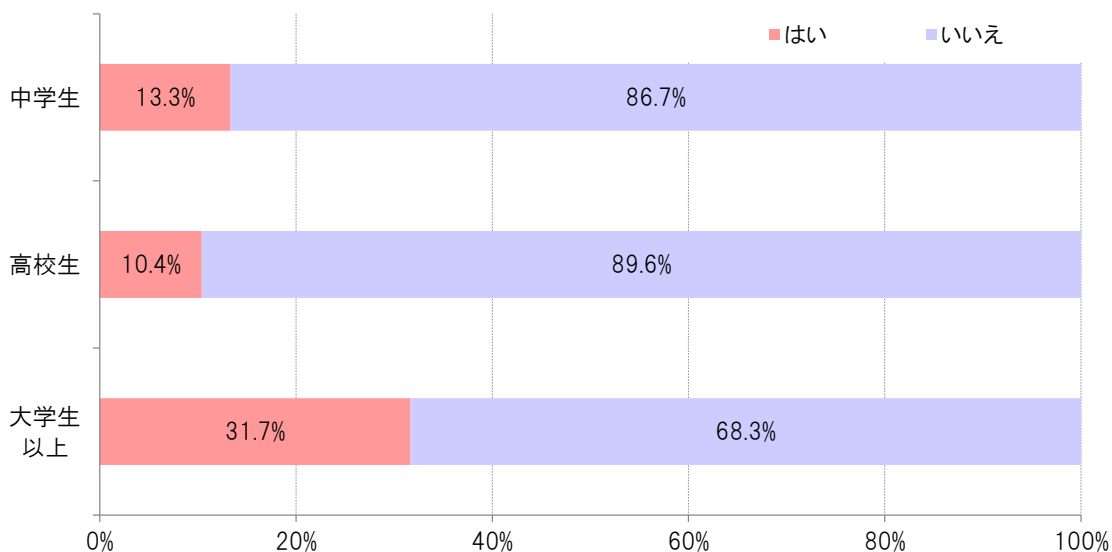
■ 恋人がいるのは全体の約 15%。大学生では約 7 割が恋人なし。
最後に恋人について聞いてみた。集計・分析をしながら、「あと少しだから許して」と祈っている自分がある。たぶんもう手遅れだろう。

まずは現在の恋人の有無について聞いてみた。全体では恋人がいると回答したのは 16%に留まった (図表 10)。ここまで見てきた告白についても数字と比較するとやや少ないようにも感じるが、すべての告白が成功する訳ではない、とのことだろう (もちろん過去の告白も含んでいるためもある)。段階別に見ると中高生では低く、大学生になると 3 割まで上昇する (図表 11)。ただそれでも、大学生の 6 割は恋人がいない現実がある。

<図表 10：現在、恋人はいますか？ (n=272) >



<図表 11：現在、恋人はいますか？ (段階別：中=135、高=77、大以上=60) >

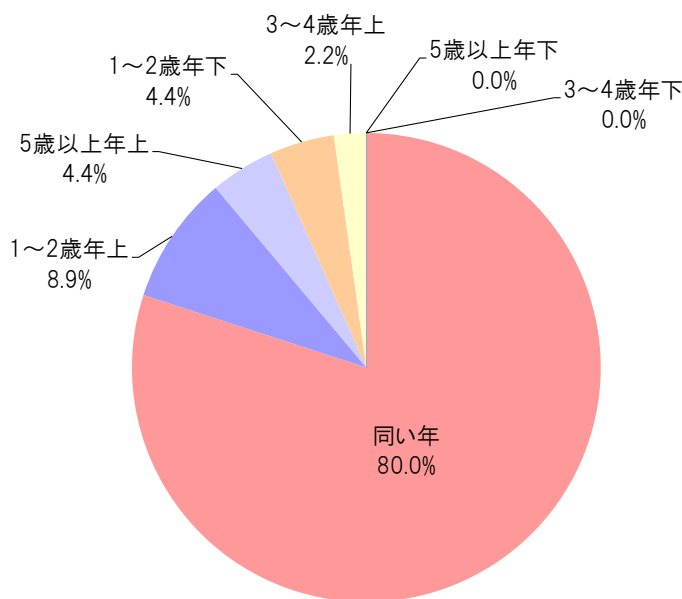


■ 同じ年の恋人、出会いは教室で

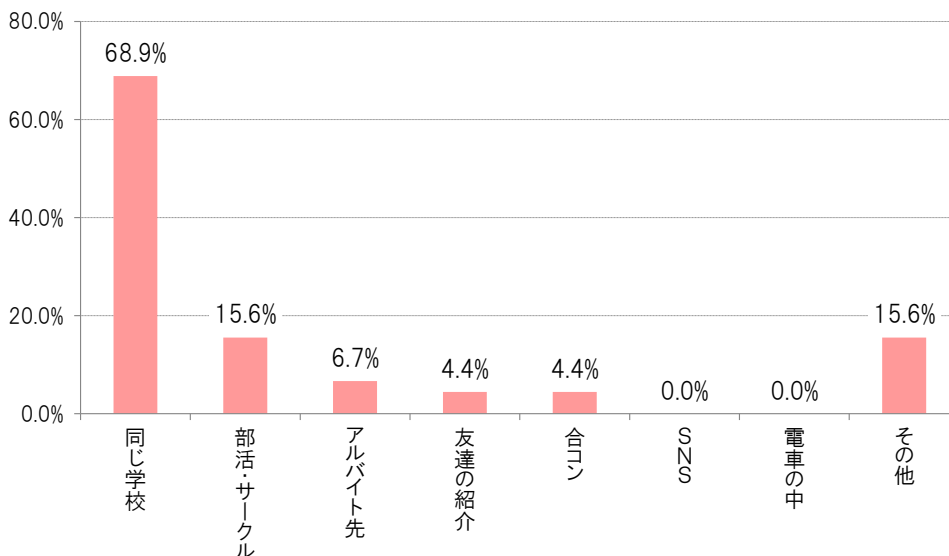
最後の最後、恋人との年齢差と知り合った場所を聞いてみた。8割の恋人は「同じ年」であり、そのため知り合った場所は学校が多くなった（図表 12・13）。在学中に関しては、まだまだ年の差カップルは少数派だ。社会人になると、また事情が変わるのだろう。

このレポートを通して私から言えるのは、勉強も恋も遊びも充実した学校生活を送ってほしいということ。そして、社会人になると出会いの数は極端に少なくなるから今のうちだぞ！ということぐらいである。

<図表 12：恋人とは何歳差ですか？（n=45）>



<図表 13：恋人とはどこで知り合いましたか？（n=45）>



調査結果に関するお問い合わせ

株式会社コアネット

TEENS RESEARCH 担当：奥田

TEL：045-914-3005 MAIL: info@core-net.net

URL：http://www.core-net.net/